

残映下





残映  
下

後編です。  
いやいや星の監視をしてるナズーリンと、  
聖のために毘沙門天の代理をやってる星の話です。  
人間に聖が妖怪だってばれそうになったから  
憤慨して人間殺そうとした星ちゃんをナズーリンが体張って止めました。  
なんか空気悪くなっちゃったっていう前編でした。  
たしかそんな話だったと思います。





よく  
忍び込んだな  
隠してある  
はずなんだが

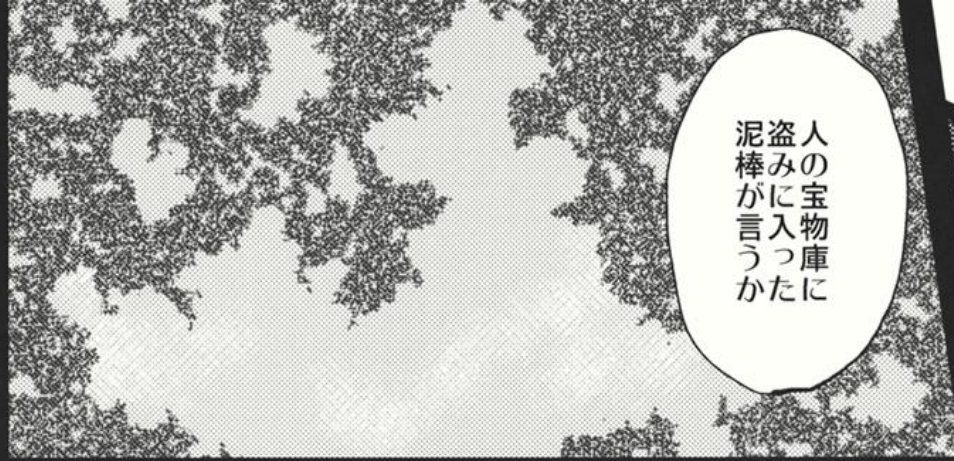


返事くらい  
したらどうだ  
ネズミよ



俺の宝と  
知ってか知らずか…  
どちらにせよ  
大した度胸だ





人の宝物庫に  
盗みに入った  
泥棒が言うか



俺の宝？  
全部盗品だろう



この穴蔵が  
宝物庫だつて？  
笑わせないでくれ

玉と石の区別も  
ついてない  
じゃないか

ゴミ置き場が  
せいぜいだね



目もくもった奴に  
おめでたい者に  
所有されるよりは  
価値のわかる者が  
持ってほかるが  
宝も喜ぶさ



その石…  
ダウザーか？

……そうだけど







弁も立つか



目と鼻は  
利くようだな

君みたい闇雲に  
盗み散らかすような  
賤しい盗人とは  
違うんだよ



!!



おい  
何するんだ



は？

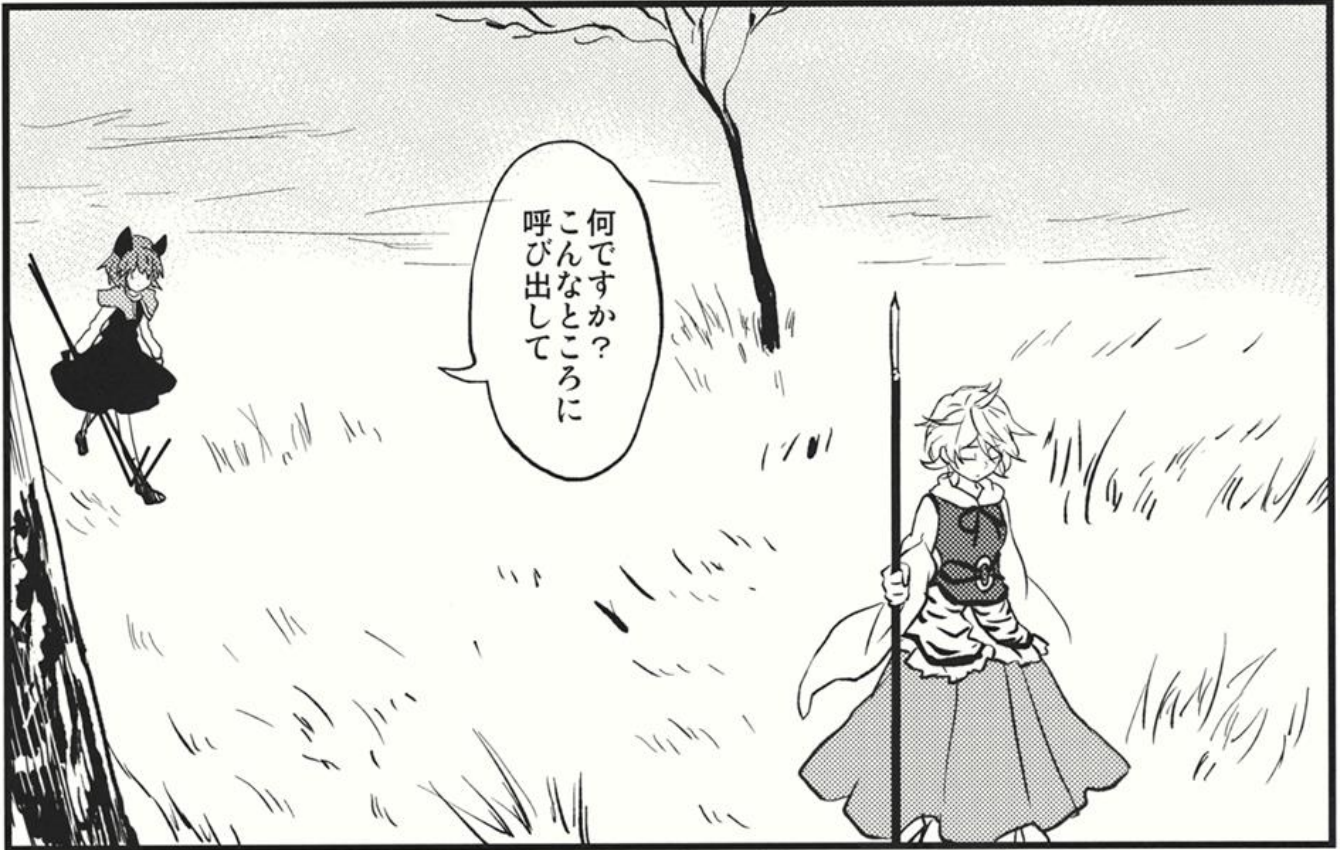
その力  
俺の為に使え







私は変わらず  
ただのダウザーで  
そして今も  
毘沙門天の使いだ








何の  
つもりだ!




あなたは  
弱い






加減しなければ  
死んでいましたよ



武神の使いが  
ひ弱では  
示しがつきません



修行をしましょう



全力で  
かかってきかないさい





真正面から相手  
してられるか



見くびられた  
ものですね

逃げると  
わかってはいるが  
見逃すわけが  
ないでしょう

その賢しい頭は  
飾りですか





これで  
手加減してるのか

少しは  
やり返してください



少し話を  
しましょうか



退屈ですね

こんなことでは  
毘沙門天の手下として  
勤まらないですよ





不用意に  
出歩くから  
襲われたんだよ

夜道には  
何が潜むか  
わからないからね



何者かに  
食い荒らされた姿で  
発見されました

無数の

小さな生き物に



この前の  
あなたが  
庇った人間

山の中で  
見つかった  
そうですよ



野放しに  
しておけるか

あなたが妖怪だと  
ぼれたんだ



あなたのネズミたち  
でしょう

なぜ  
庇っておきながら  
殺めたのですか





あれは  
私の失態でした

しかし私がみなを  
欺いていた事に  
しておけば…



毘沙門天の名に  
泥を塗るつもりか



それで？

聖に退治されたことに  
しておくと？



そうだ  
あの方の名を  
守るためだ

本当に  
そう思っている？



毘沙門天を  
名乗った以上  
いかなる失態も  
許されない

私が許さない









！  
煙幕か



ご忠告  
痛み入るね！！



これが修行なんて  
言えるか  
先日の件が  
あるにしても  
言動がおかしい



何が目的だ  
くそっ  
こんなんじゃ  
考えもまとまらない

はあ

はあ





使命感よりも  
忠誠心が  
勝ったのですか

その忠節に  
毘沙門天様も  
お喜びになる  
ことでしょうか



冷静さを身上とする  
あなたがあの時だけは  
身を投げ出すほどに  
自分を失った



残念でしたね





いつものように  
静観していれば  
私を毘沙門天の座から  
引きずりおろす  
ことができたものを



いいえ



違う

ここを去ることが  
出来た



私の胸中など  
どうでもいい!











ごめんなさい  
他に方法が  
思いつかなくて…

普通に  
話し合おうとしても  
言いくるめられて  
しまうから

もう少し  
マシなやり方を  
思いついて  
欲しかったね



私がナズーリンから  
本音を引き出すなんて  
できやしないのよ



私を追い出したかった？  
聖はそれを知っても  
私をここに置いておく  
つもりだそうだよ

私はただ…



だけど  
どうしても  
あなた自身から  
聞きたかった

私を見ているのは  
私を監視しているのは  
気付いていたわ



そんな事知って  
どうする



あなたが  
何故ここに居るのか  
知りたかった





君には  
よくわかるだろう

求められているのは  
脅威を払う軍神だ



さつき君が  
言っていたとおりだよ

私はもう戦神としての  
昆沙門天様のお役に  
立てるような  
妖怪じゃない

だからこんな  
下らない役目を  
賜ったんだろうね



君や聖がいることで  
人は夜を恐れなくなった  
徐々に人間の領域が  
広がっている  
彼らは今に  
妖怪の領域すらも  
侵していくよ

聖が妖怪を  
救おうとしたことが  
裏目に出ているんだ



私だって妖怪だ

聖の種を超えた  
慈愛には感心するよ



聖の行いを  
否定しているの？





あなたも

寅丸星

毘沙門天様を  
利用している聖も



でも気に入らない



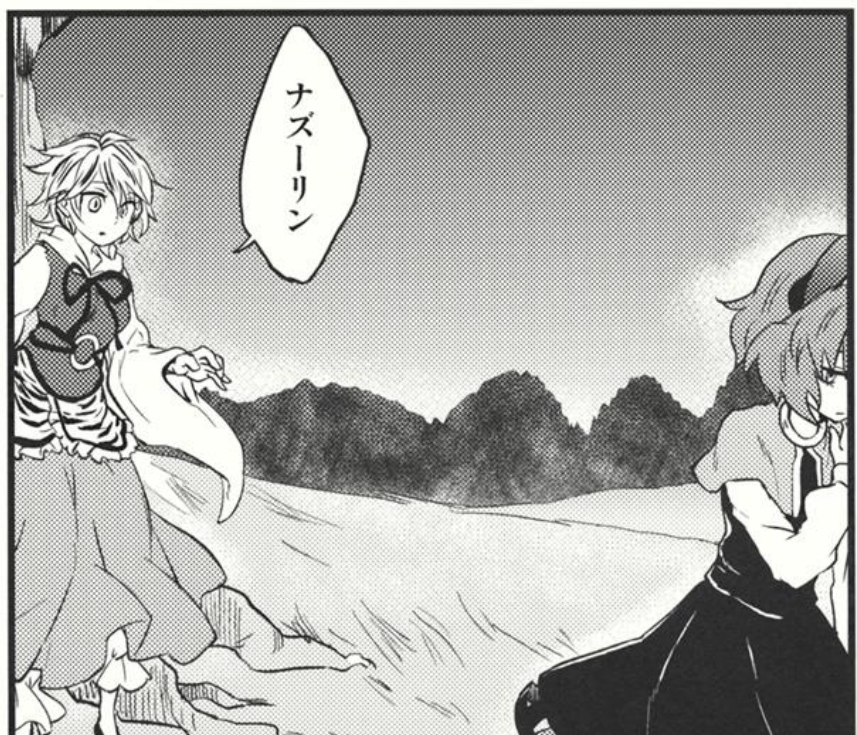
この寺がどうなろうと  
知ったことか

君自身が  
どう思おうと  
君に冠せられた  
名だけは守るよ



忘れるな

あなたは  
毘沙門天の名代だ

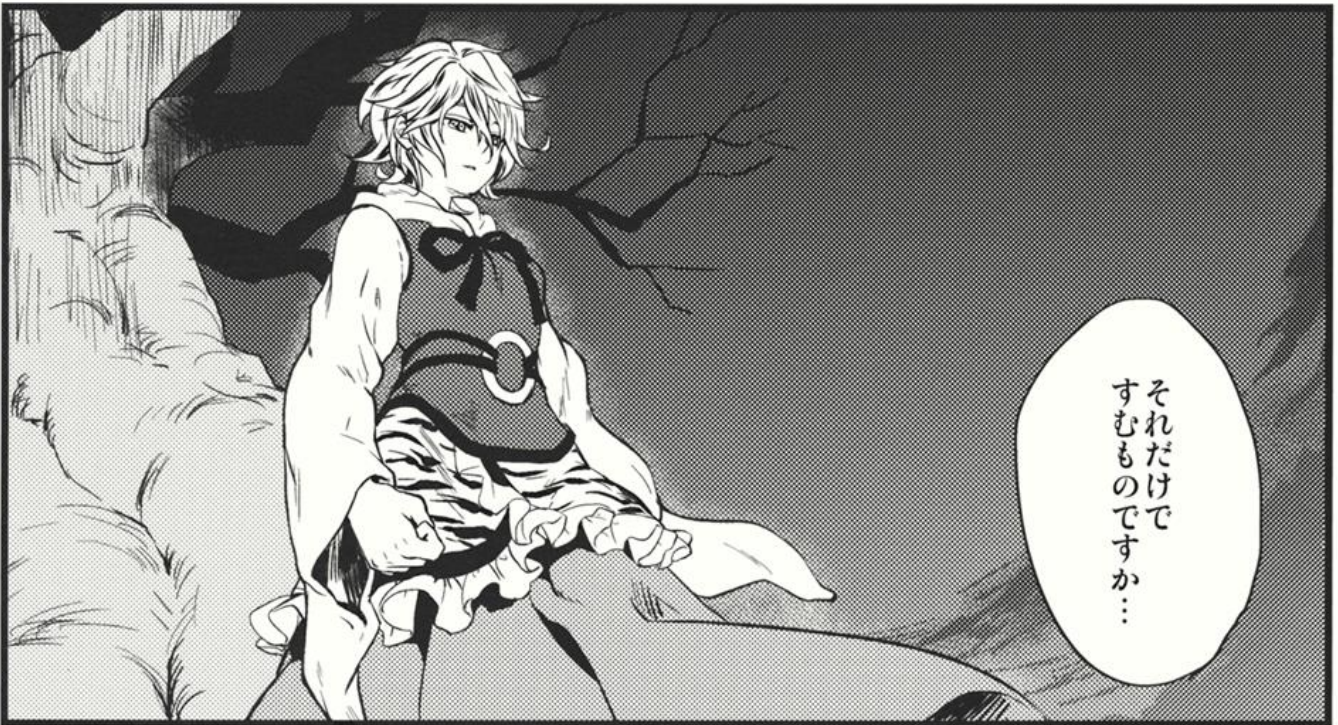


ナズーリン





降りれば  
聖の信頼を失う



それだけで  
すむものですか…



お前は弱い





それくらい  
知ってるよ



生き延びたければ  
その頭を  
逃げるために使え



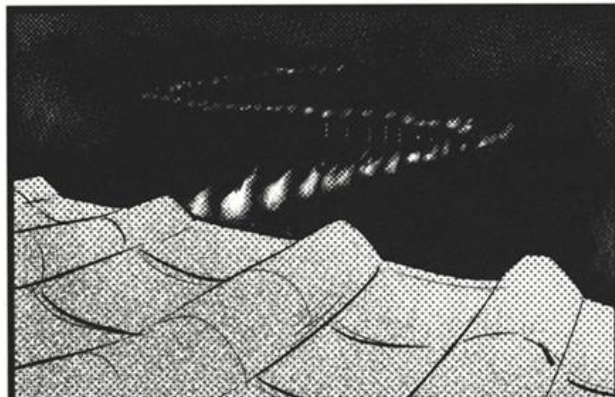
私は  
逃げ遅れるなんて  
無様な真似  
しませんから



逃げ方  
なんてもう…  
!?



ついに  
来たか…





人間の聖への疑念は  
膨れ上がり  
とうとう  
妖怪退治の専門家を  
呼び寄せた

早く逃げて  
ください

いいえ  
私が出なければ  
収まらない  
でしょうね

彼らの目的は  
私だから

人間の皮を  
かぶった妖怪は  
寺にある

尼僧は人々を  
欺き寺に妖怪を  
匿っている

人に害を為す為さぬの  
区別なく妖怪たちは  
封印されていった

聖！

もう  
そこまで  
来てるよ

私を  
仕留めるまで  
どこまでも  
追ってくるわ

あなたたちは  
早く逃げなさい





待って下さい



そういうことじゃ  
ありません!

星



私も行きます

いけません  
私が居なくなっても  
貴方さえ居れば  
寺は残るわ

私のわがままを  
聞いて

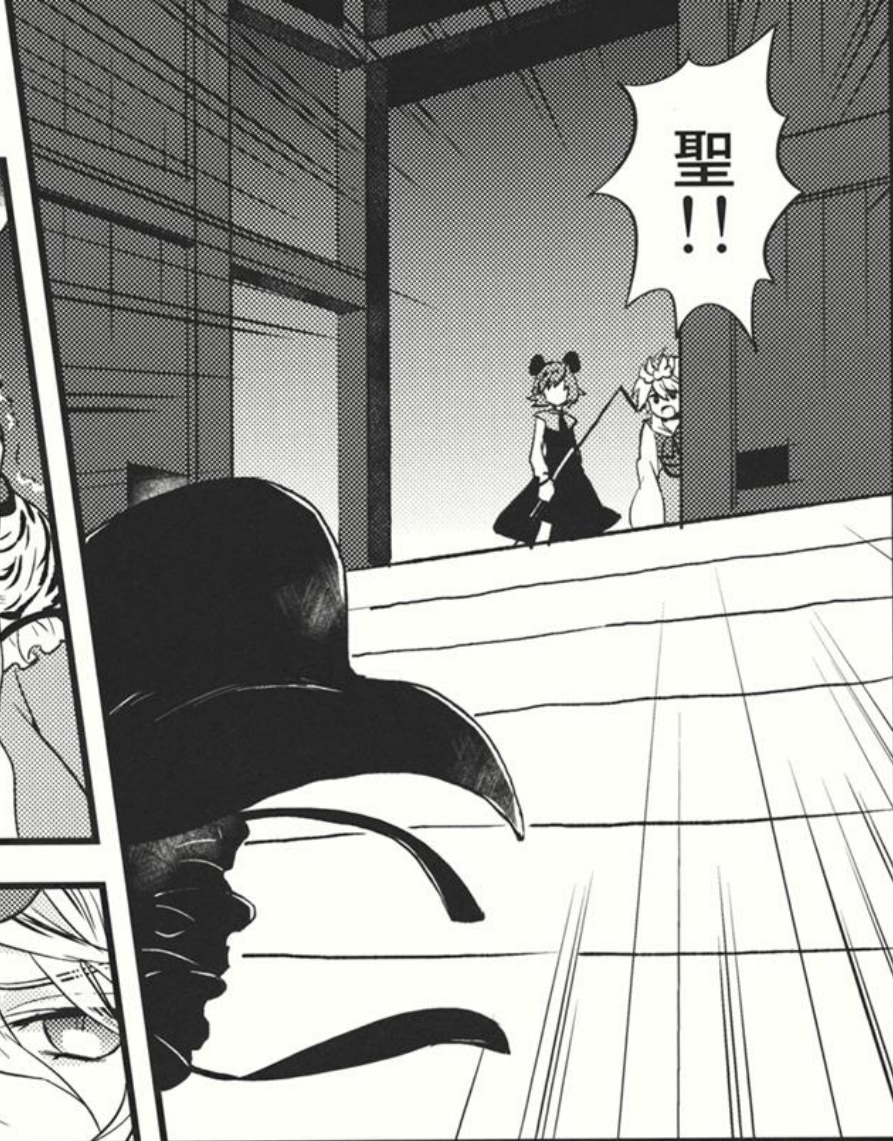


ごめんね













聖の言う事を  
聞くんた

だめだ



君が行くなら  
聖を討たねば  
ならないんだよ

聖が望んだのは  
妖怪寅丸星じゃない



相手が悪すぎます  
いくら聖でも  
このままでは…





寺の本尊たる  
毘沙門天だ



そう…

ですね…

そう  
それでいい

君は  
毘沙門天として  
正しい選択をした



そして  
夜明け前



聖は封印された





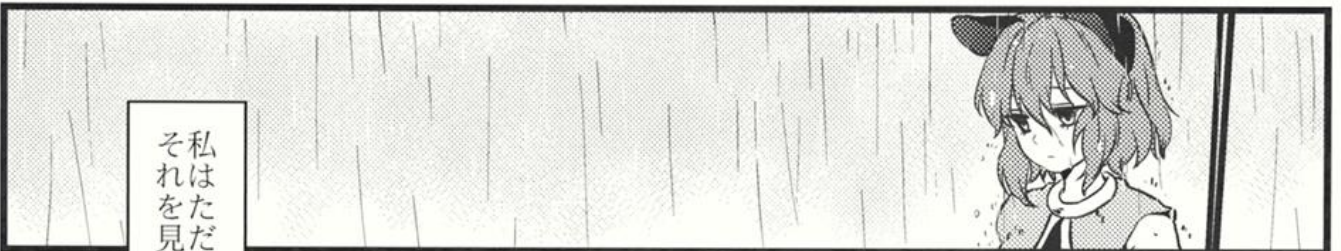




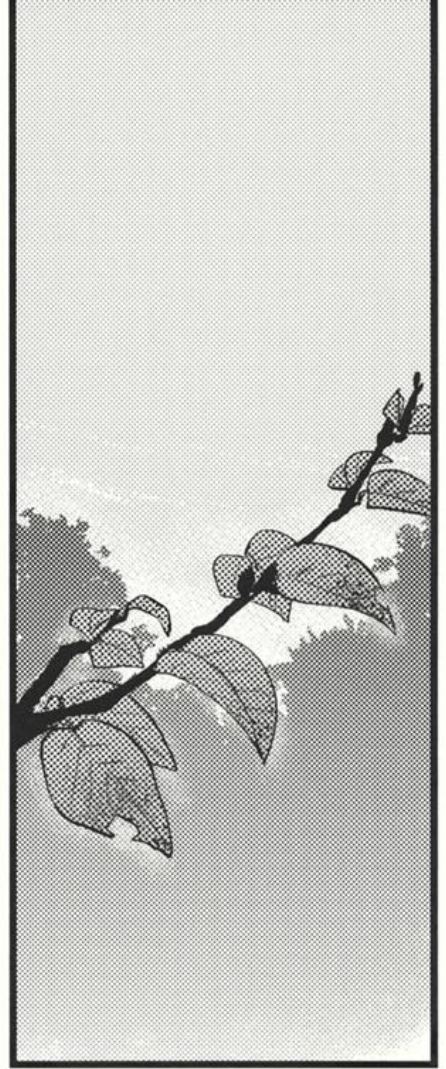
雨の中  
寅丸星は泣き続けた



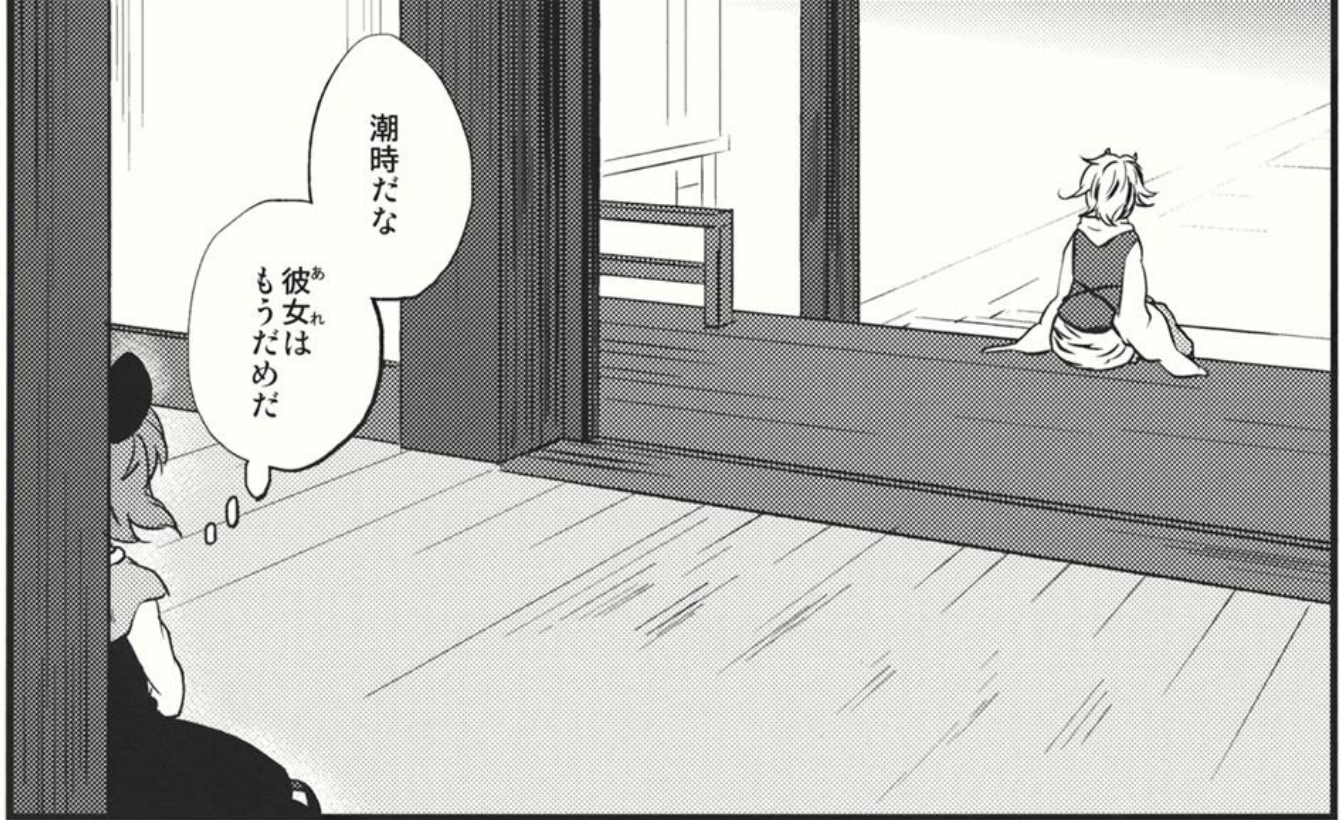
私はただ  
それを見ていた











潮時だな  
彼女はまだ  
もうだめだ



今もずっと  
考えているんです

私のした事は  
正しかったのかと



彼女の—



聖のために  
優秀な毘沙門天の弟子で  
ありたかった

それなのに  
彼女を  
失ってしまった







寅丸星は  
優秀であるがゆえに  
愚かだ

聖は優しい方  
ですから…

それだけで  
私を助けたのでは  
ないことくらい  
わかっています

聖がどんなに  
寺を欲しているか

今も弟君を

聖は  
もういないんだよ

こんな事を続ける  
理由もなくなった

ただの妖怪として  
やり直せばいい





できませんよ



できるわけがない  
じゃないですか...



星様...?

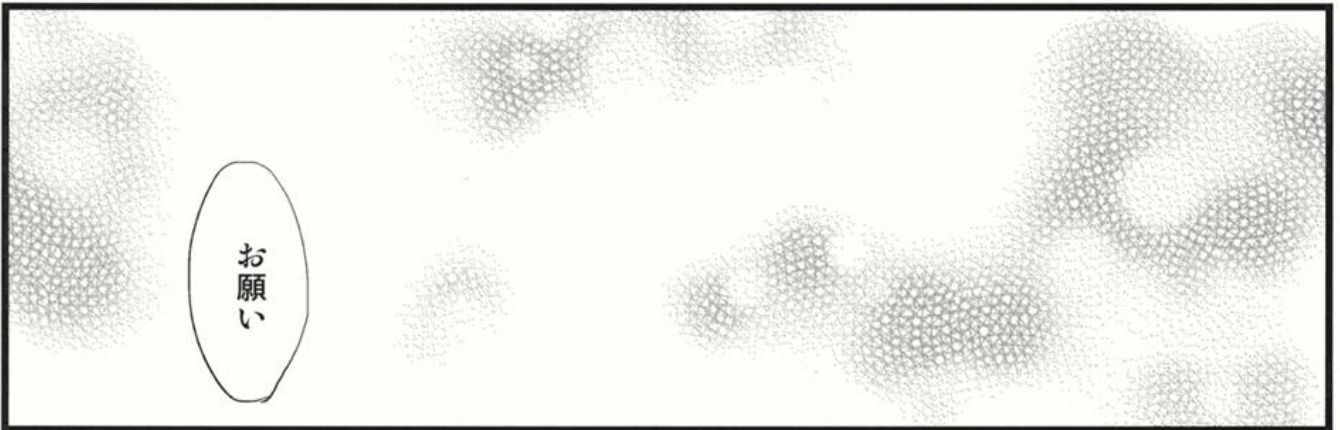




引き返せ



逃げろ



今ならまだ 戻れる





どうして  
気付いてしまったんだ

造作もない

聖の名前を  
出しさえすれば良い

寺の本尊たる  
毘沙門天だ

聖が望んだのは  
妖怪寅丸星じゃない

最も有効なやり方で  
押し留めたあの時に

なんて愚か  
なんだ

君は毘沙門天として  
正しい選択をした

お陰で  
助けることが  
できた

この人を  
失いたくないのだと

馬鹿だな





私は貴方の部下だ

居なくなったり  
なんかしないよ



あの方の名を利用したのは





偶像たれと

この人をここに縛り付けたのは

ナズーリン

本当に

馬鹿な人だ

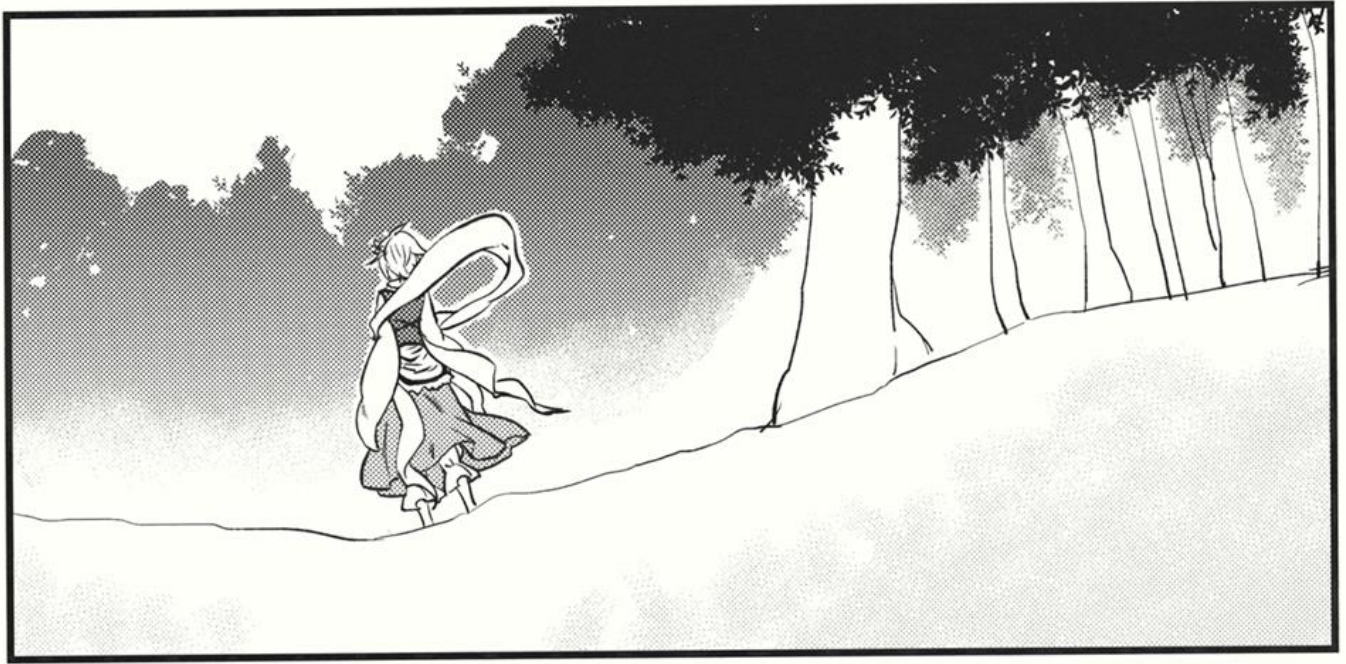
馬鹿なのは



私だ













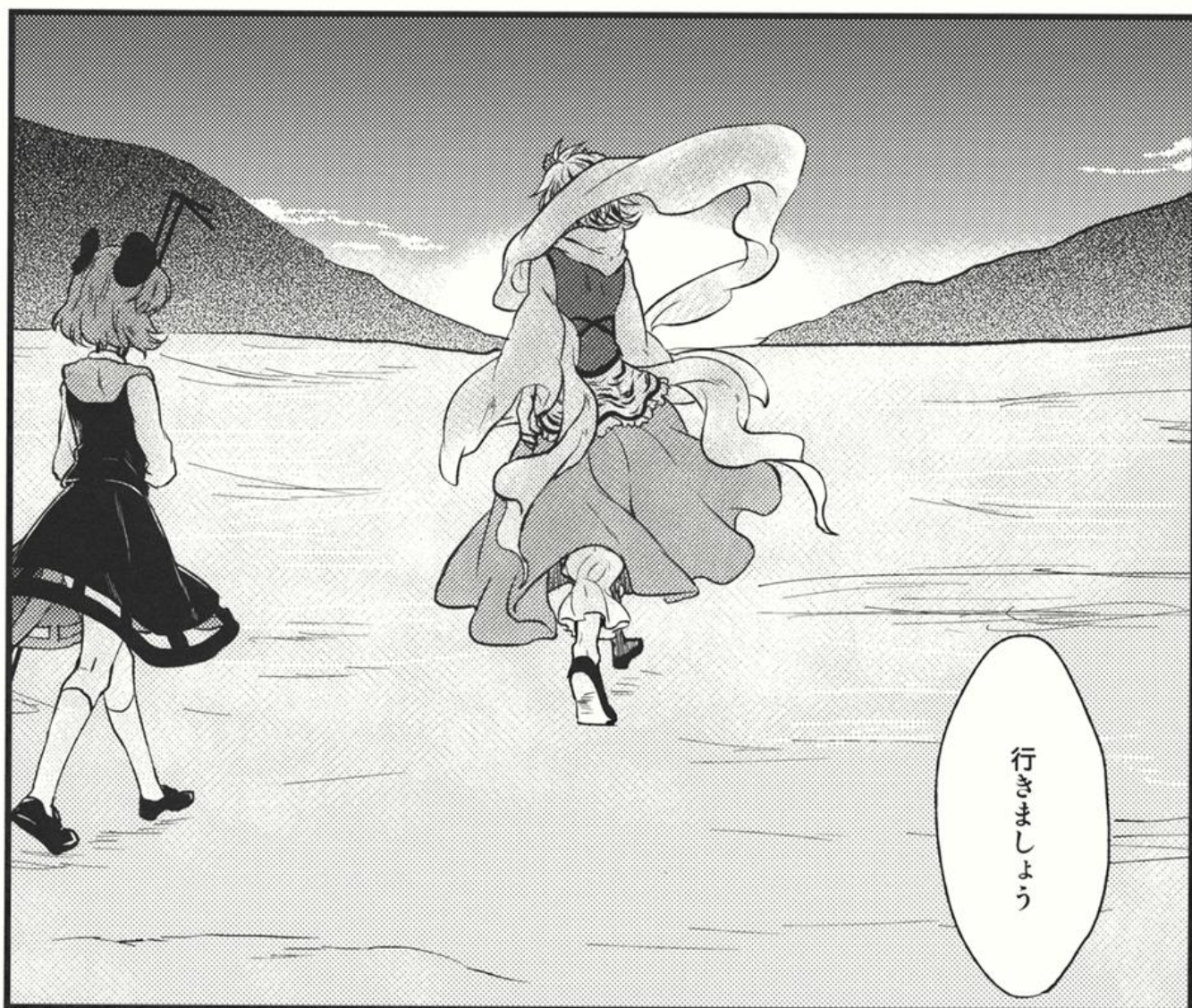


手伝って  
くれますか？

ナズーリン









ずっと描きたかった星ナズの話でした。  
上下分冊になってしまいましたがここまでお付き合いいただきましてありがとうございました。  
星とナズーリンの過去を考えたらだいたいの人が思いつくであろうスタンダードな話なので  
描くかどうか迷いはしました。  
だからこそ描きたかったというのもあるので何とか完成できてよかったです。  
まだ描き終わってませんが…終わる、終わるって！  
聖封印にナズーリンも一冊かんでたらどうなのかなあという話です。極薄いちまいだけでも。  
実際はこんなに関わろうとしなかったと思うんですが。もっとドライな子だよナズーリンは。  
星ナズ前提にするとなんともウェッティーになってしまっしとじとしてしまう。  
聖と星とか聖と命蓮とかその辺も掘り下げたかったけどどうまく行かなかったので切ってしまった。  
星がどんなに聖が好きかは星蓮船やればわかるからいいよね別に。  
星蓮船本編がはじまるまでの長い時間をかけて亀のような歩みでしか進展しない。  
そういう星ナズであってほしい。  
百年単位で一步前進するような。見届ける前に常人はしんでしまいます。  
この子達が二次元でよかったです。  
感想などありましたら教えてもらえると嬉しいです。



# 残映下

2012/08/11  
発行 DYNAMO  
友部キノコ  
印刷 緑陽社

[http://livewire.skr.jp/  
pixiv 462527](http://livewire.skr.jp/pixiv/462527)

原作 上海アリス幻楽団









残映  
DYNAMO